



いまいだがと
宿幼稚園 ● 今井 崇人 くん

おすし屋さん

幼稚園の「お店屋さんごっこ」で、「おすし屋さん」をしたときの様子を描いてくれた崇人くん(5歳)。

「ティッシュペーパーや折り紙で、サーモンやマグロ、タマゴを作ったよ」と元気に話してくれました。

ぼくの夢 Dream-61 わたしの夢



夢は…。 “パティシエ”

白方小学校6年 ● 佐藤 梨冴子

私の将来の夢は、パティシエになることです。パティシエになろうと思った理由は、人を幸せにしてあげたいと思ったからです。

ケーキやお菓子を食べると、なんだか気持ちが悪くなったり幸せになったりするようになります。それは、きっと作っている人が、「みんなに喜ばれるようなお菓子になりますように」という思いを込めて作っているから、食べたときにとても幸せな気分になるんだと思います。私も、そんなふうにケーキやお菓子を作って、食べた人みんなが幸せになってくれたらいいなと思います。

今は、そんなに難しいケーキやお菓子は作れないけれど、食べてくれる人がみんな優しく、幸せになれるお菓子を作ることを目標にして、これから頑張っていくと思います。

大雅(7歳)、友登(6歳)、葵生(1歳11か月)は、わが家の仲良し3兄弟。この3人の泣いて笑って大騒動で、毎日が瞬間に過ぎていきます。
上2人は、年子のせいか「兄」「弟」というより、何でも競い合う友達のような感じです。それで、ちよっとしたことでもお互い張り合っていてケンカばかり。そうかと思えば、親には分からない2人の楽しい世界があるらしく、めちゃくちゃ楽しそうに盛り上がっていたり…。そんな2人に変化が訪れたのは、一昨年、葵生が誕生してからです。大雅は、「お兄ちゃん風」を吹かせたがるようになり、頼もしくなった反面ちよっとウルサイ(笑)。でも、だいが本人に任せられることも増えてきました。驚いたのは友登の反抗期です。ほとんど手が掛からず、「イヤイヤ期」も大してなかったのに…。それは、東海村への引っ越しや幼稚園への入園、初めてお兄ちゃんになるといった、大きな環境の変化が同時期にやってくる、友登にはすべてを抱えきれなかったのでしょう。私は、それを受け止めてあげなければと思っていてもうまくいかず、試行

わが家の 子育て奮戦記

表紙の「ひと」
しみず やすこ
清水 弥寿子



錯誤を繰り返していました。
そんな中、葵生はだいが言葉も覚え、お兄ちゃんたちと話が通じると満面の笑みで喜びを表します。のびのびと成長し、3人の中で一番の「きかん坊」であるとともに「癒やし系」でもあります。
子育ては、思い描いていたものとはかなり掛け離れていました。「子どもは思い通りにはならない」と分かっているけど、つい子どもと同じ土俵に上がり、大人気なく衝突してしまうこともしばしばあつて反省の日々を送っています。子育てには絶対の答えがないから難しい…。それでも、3人を連れて買い物に行くと、「あらあ、男の子3人！ 今が一番大変でしょうけれど、一番楽しい時期でもあるわね。頑張って！」とよく声を掛けられ、すると張り詰めていた何かが、すーっとほどけていく感じになります。こんな思いは、子育てをしているからこそ得られるものなのかもしれません。「やっばり子どもはかわいい」のです。
これからも子育てに奮闘することと思いますが、主人とともに子どもたちの成長する姿を楽しみに頑張っていきたいと思っています。